
令和7年度 最終報告

千葉市 海まつり協議会

活動の原点:

テレビの旅番組で千葉駅前の一コマ。誰一人、近くのおススメスポットを答えられなかった。

- ・はじめて千葉ブランドが全国区となるきっかけとなった
千葉市地域文化財「御浜下り」を通じて、
千葉市の歴史的な奥行きを再認識してもらい
「うみ千葉」の文化を市民全体で継承していきたい

■2026年「千葉開府900年」➡シビックプライドの確立の年に

2022	2023	2024	2025	開府900年 2026
始動	啓発	普及	醸成	シビックプライド確立
海まつり協設立	多主体連携	オール千葉市	オール千葉市民	行事開催

【年度当初での問題意識】—この3年の取り組みで感じてきたこと—

理解は広まった。

が、(市民や行政の)主語が『You』から『I』に変わらない。

「祭」の価値を共有できていない。

*千葉方言で「祭」は「マチ」=「待ち」

人智が及ばない当日のため準備を尽くして天に委ねる(感覚)。

①伝統祭礼を中心とする地域

「祭に帰郷するために正月は働く」「同窓会は祭の日に開催」・・・主語はI =「住民」の視座

②伝統祭礼が存在しない地域

「行政サービスのメニューのひとつ」・・・主語はYou=「消費者」としての視座

千葉は②

「消費者」を「市民」に変えていくことは不可能なのか？

【「移植型の新興まつり」を参考に】

①札幌市「YOSAKOIソーラン」

1992年:愛知県出身／北大在学中の一人の学生の呼び掛けで創始／高知市「よさこい」をアレンジ。

2025年:人口195万人／観客211万人／参加者27千人:うち札幌市民約1万人(人口の0.5%)*HPより推計
東京ベッドタウン圏からの参加チームが多い。祭礼無い地域の受け皿(千葉市からも2チーム)

②越谷市「南越谷阿波踊り」

1985年:徳島県出身の地元実業家の呼びかけにより創始／徳島市「阿波踊り」を移植。

2025年:人口34万人／観客70万人／参加者6千人:うち越谷市民約2.5千人(人口の0.7%)*HPより推計
終了後の片づけ・ゴミ拾いは踊り手が衣装のまま行う伝統。シビックプライドと祭の相関を示す好例。

■仮説

- ・人口の1%が「主語がI」となる祭礼文化を作れば、シビックプライドの確立が可能なのでは。
- ・参加者2千人(中央区人口20万人×1%)の祭礼を毎年反復させるのが直近の目標。

■今後の方針

「説く」を脱却し、「体感させる」に重点を。

【今年度施策の骨子】

①山車曳き文化の醸成(次世代育成)

女性や子供が気軽に参加可。囃子や踊り練習は反復性あり地域コミュニティ醸成しやすい。
神輿は男性世界で門戸狭く。各地の祭礼を巡る同好会に組織化され地域基盤につながらない。

②こども御浜下りや歴史教室の継続(次世代育成)

③結城舟の復元に向けての準備

【実施内容① 山車曳き文化の醸成】

- ①佐倉囃子保存会の協力で御囃子練習会を実施
4回開催／毎回約20名の参加者／子供が半数。



御囃子練習会(寒一町民館)

- ②既存の欄干付き木製台車に木組みの屋根を設えて
山車代わりとした(結城舟を意識)



どことなく舟形山車にも見えてくる屋根つき台車

③ 8/17(日)

- ・例年、8/20午前にトラックに神輿を載せてまわっている行事を手曳きに変更
女性や子どもに手軽に祭の楽しさを味わってもらえた
- ・各自治会館での他町会役員への接待を廃止、自治会女性役員にも祭列に参加してもらった



第1回YOSAKOIソーランの様子
1千人弱のパレードからはじまった
*YOSAKOIソーラン組織委員会HPより引用



8/17(日) 神輿の手曳きの様子
新宿の白幡神社前の片側2車線道路を横断

*車主役の日常 vs 自分が主役の非日常
YOSAKOIソーラン:「街は舞台だ」

④ 8/20 神輿の行列に山車を組み込み、初めて山車曳きを実施。

- ・ **約10名の子供**が山車に乗り込んで交代で御囃子を演奏
- ・ 氏子12町会×1町会20組 = **約250組（500名）の親子**が交代で山車曳きに参加
- ・ 初めて祭列に参加した町会女性役員100名と神輿担ぎ手200名を加えると、、、
総参加者800名（目標2000名） 今後は継続と拡大。



交代で山車に乗り込んで演奏することもある



佐倉市鍋木町手踊り連のお手本演舞(来年の挑戦課題)

祭＝「364日の日常を過ごすための非日常のハレの1日」

⑤ 当日、こどもには水色の扇子80本を配布(30分で終了)

扇子に貼ったNFCタグにスマホをかざすとブラウザを立ち上がり協議会HPの練習日程ページを表示





夕方はまばらだった曳き手も、夜には大人数に

【実施内容② こども御浜下りの継続】

実施した内容

・9/6(土)事前清掃

浜をアイデンティティーの核として未来(=こども)のために地域総出で整える。

寒川小PTA、寒小おやじの会、新宿小PTA、ゆうきBC、海風クルー、淑徳大学渡邊ゼミ、市観光協会等
約60名

・9/7(日)こども御浜下り

五十嵐靖晃「project UMINOUE」と共催、さんばしまつりと連携

参加したこども(親子) **約60組** *昨年のリピーターが多数

※昨年はさんばしまつり側の潤沢な広報宣伝費で告知していただいたが、今年は広報はほぼ無し。



【3年間の総括】

1. 「海ちば」の歴史的文化の普及啓蒙の促進

- ・ 地域一番の高人口密度である千葉中央駅西口マンション群前において、地域団体との連携により普及啓蒙と地域交流の一大イベントを開催。
- ・ 千葉みなとエリアで集客2万人のイベント「さんばしまつり」との連携により、一昨年の「御浜下り」の観客は史上最大の約2000名。認知度を格段に引き上げた。

※「御浜下り」開催の問い合わせ数＝事業実施前：1～2件／年→今年：約30件／年。

2. 地域の歴史的文化を住民一人一人が「自分ごと」として捉えるマインドの醸成

- ・ 山車曳き文化の創生により初年度約500名の女性と子どもが山車曳きに参加。
→目標の2000名に向け、来年度はこれまで氏子範囲外だった問屋町、千葉みなととの連携へ。
- ・ ポートパークでの「御浜下り」を中止し、地元での行事に注力したら、住民の評価(人出)は？
観客人出は約2000名。例年の3～4倍。
→今後は、地元でのマインド醸成と文化財「御浜下り」を支える使命とのバランスが重要。

3. 次世代育成

- ・ こども御浜下りに初年度110組の親子が参加、ほぼ広報しなかった今年もリピーター中心に60組が参加。
 - ・ 紙芝居や歴史教育を地道に実施
-

【来年度以降の取り組み】

1. 本事業の自主継続

①開府900年記念「御浜下り」の開催

(これまで培ったノウハウの総結集)

＊地域連携による地域住民直営の「御浜下り」

＊「御浜下り」「こども御浜下り」同時開催で
次世代育成

＊星明りの海に入る千葉特有の御浜下りを
照明デザイナーとの連携によりアート化し
幅広い市民の支持を

＊放課後NPO等やこども食堂との連携により、
子ども製作の紙袋ランタンで地域ぐるみの参加



②開府900年記念「御浜下り」を契機とした「結城船」の復元

＊来年の御浜下りでは今年改造した山車に竹組みで船形の造作を行い、仮「結城船」とする予定。

＊来年の御浜下りで協賛用PVを流して協賛への理解を募る

＊本「結城船」への協賛募集を開始。現在、館山市の船形山車所有町会、船大工、神輿大工等に調査を実施中。

③将来、市内複数神社連携による御浜下りを提唱する構想

・御浜下りは「不動の北極星を目印に海を渡って房総半島にやってきた千葉県人のアイデンティティ」

cf: 茅ヶ崎西浜海岸「浜降祭」は相模国寒川神社をはじめとする38社合同の祭典

【参考：結城寒川アイデンティティ推進総合計画】

		千葉全体のため	結城寒川地域のため			
			結城側(都川以北)		寒川側(都川以南)	
寒川神社の祭事		御浜下り ※費用と意義のバランス整合	神輿の渡御			
地域の取り組み	長期策(10年) 地域をになう 子供を育てる	②④こども御浜下り		②⑥囃子連の横展開 ②⑥手踊りの横展開		②⑤囃子連創設 ②⑤手踊り移植 ②⑤寒川花火会
	中期策(5年) 地域をになう 大人を引き込む	②⑥project UMINOUE ※県美「海風」から昇華 ②④浜清掃 *ビーチクリーン部 ※こども御浜下り前日清掃を有志が継承			*新宿 *神明町	②④厳島神社 餅つき大会 *港町
	短期策(1年) 今年が賑やかに	②⑥照明アーティスト連携 ②④さんばし まつり連携		*問屋町 問屋町夏まつり 結城夏まつり		?都市計画公園のお祭り広場化 ②⑤例祭での露店増